

ローマのバロック様式を巡る (1) 散策を始める前に

藤原 道夫

昨年4月教皇サンフランシスコが逝去した際に、ヴァティカンやローマの風景がしばしば放映された。ローマはよく歩いた街だ、懐かしく映像に見入った。

故教皇はサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂（ヴァティカン市国領）に埋葬された。この大聖堂の後ろ側をバスの中からオベリスク越しに時々見ていた。波打つような幅広い階段が印象的。内部も何度か見学した。バジリカ様式で壮麗な礼拝堂がいくつかあり、また古いモザイク画もあり見所が多い。それらの中で一つだけ挙げておきたいのは、後陣の横にジャン・ローレンツォ・ベルニーニ（1598～1680）の簡素な墓を見つけたこと。この人こそローマの景観をバロック様式の作品で華麗に仕上げる際に最も活躍した建築家・彫刻家だ。

ローマの街には共和政および帝政時代の遺跡が多く残っている。また古い教会やルネサンス期の建物も目に付く。16世紀末にローマに始まった動的なバロック様式の教会が18世紀にかけて沢山建てられ、見事な彫像のある噴水も多く造られた。また押し寄せる巡礼者に対応して道が整備され、要所に古代エジプト由来のオベリスクが再利用されて立てられた。すべてが時の法王の指導力のもとに実施された。こうして街が大きな変貌をとげてゆく。

ローマについては、この会で発表するために書こうとしたが、機を逸したまま。実は2003年に『私のイタリア紀行』を出版した。それまでに訪ねた都市ごとに、見分してきたことを綴ってみた。この本ではローマについて簡単に触れたに過ぎない。多様で奥深く、手に負えなかったのが正直なところ。以降も何度かローマを訪ね、また様々な事について学んできた。ローマのことがだいぶ分かってきた今、ようやく書いてみる気になった。

自分の体験を基に、バロック様式が目立つローマの街の一部を四つのコースをたどって散策してみたい。①トレヴィの泉からクイリナーレの丘へ、②ナヴォーナ広場からミネルヴァ広場へ、③ボルゲーゼ美術館からバルベリーニ広場へ、そして④ポポロ門からスペイン階段へ。ベルニーニやボッロミーニといった天才的な建築家によって装飾された街の姿を見ることになる。バロック絵画を拓いたカラヴァッジョの絵を間近に見ることもできる。また、古代エジプトから運ばれたオベリスクが、どのように再利用されてローマの風景に溶け込んでいるかについても理解することができるだろう。